

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会  
.....幸樹会事業所.....

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



飛翔（ふくろう）

いのうえ ただし  
絵・井上 忠司

愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングにはまり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

**第 7 回 地域交流カフェのご案内**

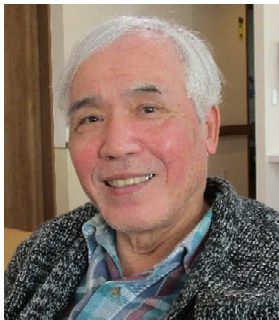
**2月21日(火)12:00~14:00**

餅つき大会をおこないます。ぜひご参加ください。

場所：からたち薬局隣敷地、さんしょうリビング



# 鳥を描き続けて10年間



井上 忠司さん

一表紙絵は、夕やみ迫るころ、ふわーりと飛ぶふくろうが見事に描かれていて素晴らしいと思いますが、どのような方法で描いたのですか？

押し花と木版画を組み合わせています。バックになっている影のようにみえる草花は、押し花を一度コピーにとるという手法を使い、ふくろうは木版画です。ブルーの部分はスプレーをかけてぼかしています。色のついている部分は押し花を乗せて立体感を出しました。

一バードウォッチングと絵と、二重に楽しんでいますね？

バードウォッチングは自然とのドッキング。自然にいる鳥は、勝手に来て勝手に行ってしまいが、非常に生き生きしている。生きた鳥、その生活を見ているという面白さがある。ただ見ている、写真を撮るだけではなく、木版をほることにし、自分流に押し花などを使ってアレンジしてみました。始めたころは「押し花を使うなんて女性のようだ」と言われたこともあったが、これはアートです。

一さんしょう利用のご感想は？

病気が悪化し入院していた時はストレスがあった。その間に妻も体調を崩し、実家に帰って療養することになった。今まで、炊事・洗濯・掃除は妻に任せきりだったので、一人暮らしは不安だったが、家で暮らしたいという強い希望があった。さんしょうを利用することで、看護師・ヘルパーさんが毎日家に来てサポートしてくれるし、通いでさんしょうに来ると人と話したりできるのも楽しい。孤独に陥ったり、無口になって落ち込んだりということはありません。

ちょっとつらい時期もありましたが、今はこの生活で落ち着いています。

一これから、どのような生活を送りたいと考えていらっしゃいますか？

絵を描いたり、仲間の絵を観に行ったり、美術館に行ったり、絵を中心にしていきたいです。それができれば本望です。

孤独を感じることもあるけれど、都会が好きです。夫婦が離れて暮らすことになってしまうが、元気になったら自分が妻のところへ行ったり、妻に来てもらったり、「通い婚」でいきたいと思っています。

## 初外出は市川のじゅん菜緑地へ



1月12日、初外出は、昔国分沼と呼ばれ、じゅんさいがたくさん生えていたことからじゅん菜池とも呼ばれた市川市中国分のじゅん菜緑地へ。昭和初期に沼が干上がりじゅん菜は絶滅してしまいましたが、昭和54年に公園として整備されました。散歩道もあり、静かな公園です。お天気が良かったので、ひなたぼっこをして、お茶を飲んだり、池のカモをながめたり…。

## 初釜(お茶会)



1月20日、近所に住む宮城喜代美さん(写真右上)にお茶をたてていただきました。文字通り、さんしょうでは初釜です。畳に座れない方も、テーブル・車椅子でお茶を楽しみました。初体験者も、実習に来ていた松戸市立看護学校の看護学生も喜んで参加しました。急なお願いにお応えいただいた宮城さん、ありがとうございました。

## 書初め



1月11日、墨の匂いがフロア中に漂いました。筆を持った瞬間、みんな急に表情が変わり真剣に。筆字は、“上手・下手(?)”にかかわらず、ひとり一人の個性がにじみ出て、面白いですね。

## 消防訓練



1月19日、松戸市消防署のご指導ご支援で、幸樹会館初の消防訓練。みんな真剣にとりくみました。



## 進化続ける「ゼリー食」

トン汁(左手前) ご飯(右手前) ひじき煮(左上) ほうれん草ピーナツあえ(右上)です。「とても美味しかった!」と。

## 七草マラソン

1月8日、松戸市七草マラソンで走る野中智章さん(一番手前)。そのほか、仲田三郎・岡本健吾・加藤義幸・村里恵さんの5名の職員が走りました。粘り強く、持久力ある、頼もしい職員が“増殖中”です。勢いに乗って、岡本・加藤さんは、1月末の館山フルマラソンに挑戦。



## こんな時、 どうする? どうした!?

1月20日の八柱学習会(定例勉強会)では、幸樹会のまだ数か月足らずの実践ではありますが、6名の職員たちが認知症ケアのとりくみ報告を行い、語り合いました。その報告概要を今月から3回連載します。

### 「重度認知症、意味不明の言葉を常に発している」というAさんが、会話するまで…

Aさん(女性)は、もうすぐ百歳。1年前までは、在宅で家族と共に暮らしていましたが、心筋梗塞・褥瘡・発熱等で入退院を繰り返すようになりました。

病院を退院され、さんしょう利用開始時のアセスメントでは「重度の認知症(要介護5)のために、意味不明の言葉を常に発している」との報告でした。

さんしょう利用の当初は、「おーい、誰かー」「尻が痛いよー」「家が心配だー」「夜勤は誰だー」「一緒に寝てくれえー」等々、常に大声で訴えていました。

そこで、一人でいることへの不安解消のために、居室・リビングで職員が頻りに声掛けするようにし、昼間リビングのTV前で車椅子でいるAさんの視界に常に職員が見えるように心がけました。「夜は怪しい人が出入りするから心配」ということには、家もさんしょうも施錠されて外からは入れないようになっているから大丈夫、と繰り返し何度も説明しました。褥瘡は、体位交換器・クッションの使用を工夫し安楽な体位を保つことができました。

褥瘡が快方するにつれて身体の痛みの訴えは減少、身体の回復とともに、会話に脈絡がでてきました。Aさん「もう帰るのかい?」、職員C「はい」、Aさん「夕飯つくるのかい?」、職員C「お腹をすかせて待っている子がいるので」、Aさん「何人いるの?」、職員C「3人です」、Aさん「ほう、あんたは頑張りすぎるから自分を大切にしなきゃだめだよ」…等々。

Aさんは、目が悪く難聴ですが、気配を感じる能力は抜群。可愛らしく愛嬌がある人柄なので、職員も親しみをもって会話するようになりました。生活のリズムも改善し、夜の睡眠時間も長くなってきました。

先日の初釜(お茶会)には、車椅子で参加されました。「わたくしは、足が悪いのでここでよろしいですか?」「わたくしは、やったことがないので失礼してしまうかも知れませんが」と。別人のような上品な言葉遣いに、家族の方も驚き、感動…。

私自身、認知症と利用者への接し方への理解が深まり、「認知症の人」という見方から「〇〇という思いをもった個人」という見方に変わり、他の利用者への対

応を考える機会になるととも、チームケアの問題点・課題を知ることができました。（ケアステーションゆずサービス提供責任者・浅尾いずみ）

### 「片づけない」「物が捨てられない」が…

一人暮らしのBさんは、認知症が進んでおり、私たちが最初に訪問した時は、ベッドの周りは新聞紙の山、部屋は購入したままのお洋服の山、お風呂場・台所は食材の山、冷蔵庫にも雪崩が起きそうぐらいの食材が詰まっていました。季節の認識も難しくなっていて、お洋服が同じままで何か月も過ぎたり、エアコンの設定温度の間違いなどもあったようでした。

しかし、看護師が片づけようとしたり、お洋服替えをお手伝いしようとする、表情がサッと変わり、「さわらないで！」と手で制止されてしまいました、それまで訪問していた他の訪問介護事業所のヘルパーさんたちもいろいろ試みてきたようですが、同じようにうまくいかなかったようでした。

そこで、本人が気持ち良いケアや楽しくなるケアを取り入れようと、足浴・マッサージ、折り紙、回想法などを活用して、ケアに取り組みました。

ある日、K看護師が、Bさんがクリスチャンということを知り、「讃美歌 312 番」の歌詞プリントをもって行き、スマホから YouTube の讃美歌 312 番を流すと、「嬉しい！」と笑顔。最初は声が出ませんでした、一緒に何度か歌っているうちに声のできました。

「讃美歌を歌うと教会に行っているようにうれしい。また教会に行きたい」と。その日は、新しいグレーの靴下をはき、その上から毛糸の靴下もはきました。

その後の訪問で、新聞紙をさんしょうで使いたいので一束いただきたいと頼むと、「一つでも二つでも持って行って。また、ためとくね」と。イケアのカタログ本が置いてあったので、一緒に見ていると、ペットボトルなどをそのままゴミ出しできるようなバッグをみて、「これは、いいわね！」と話されるようになりました…。

（あんず訪問看護ステーション所長・奥村万里子）



◀八柱学習会の様子



今日の屋上太陽光発電量は…

**892kwh**

幸樹会館電力使用量 5380kwh 自給率 16.6%

## ジェネリック 医薬品って、何？



医療用の医薬品には、「先発医薬品」と「ジェネリック医薬品」の2種類があります。世の中に生み出されたお薬は、一定の期間特許で保護され、独占販売できます。これは新薬の開発には莫大な費用がかかるため、発売から一定の期間は開発した会社だけがその薬を製造販売できるようにするためです。特許期間の満了を迎えた医薬品は、ほかの会社も製造販売できるようになります。ほかの会社は新薬開発をしていませんので、安く販売するようになります。これがジェネリック医薬品です。

先発医薬品からの変更を希望しても、ジェネリック医薬品が存在していない場合もありますし、メーカーなどの関係で手に入りにくいケースもあります。ジェネリック医薬品は「有効成分、分量、用法、用量、効能及び効果」が同じと認められていますが、お薬の剤型（錠剤、カプセル、粉状など）など、細かな部分が先発医薬品とは違うこともあります。剤型などが違うと、薬の溶け出す速度が変化したり、有効成分が分解されやすくなったりする可能性もあるのです。当薬局では、ジェネリックの利点だけでなくその他の変更点もふまえた上で、ジェネリック医薬品が使えるかどうかを判断・提案しています。

当薬局では、ジェネリック医薬品を調剤する体制をとっておりますので、まずは一度、じっくり相談してみてください。（からたち薬局管理薬剤師・櫻井美恵）

## 八柱学習会（定期勉強会）

●前回報告 1月20日（金）実施。テーマ「認知症ケア—こんな時どうする？どうした！」

助言者 武井幸穂氏

### 【参加者感想】

参加者 25 名。ちょうど千葉県認知症介護実践研修を修了した3名をはじめ6名が実践報告。さんしょう開設後の4ヵ月ほどの実践ですが、職員以外の参加者からも「それぞれの報告が、一人ひとりの多様な考え方・感じ方、価値観を尊重しながら信頼関係をつくり、原因分析がされている実践報告で、ケアの力量の高まりが感じられました」と、好評でした。概要を今月号から連載します。

●次回学習会予定（定例日：毎月第3金曜日）

日時：2月17日（金）18：30～19：30

テーマ：「看取りケア」

\*場所：幸樹会館2階 \*参加自由

看護師・介護職・ケアマネ・薬剤師募集中！

編集後記：2/21 交流カフェにご参加ください。（な）